



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年7月28日

上場会社名 株式会社スペースシャワーネットワーク 上場取引所 東
 コード番号 4838 URL <http://www.spaceshower.net/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 近藤 正司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 北島 直樹 TEL 03-3585-3242
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	3,309	6.5	199	36.3	209	38.2	149	55.8
29年3月期第1四半期	3,107	18.8	146	—	151	—	95	—

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 149百万円 (56.1%) 29年3月期第1四半期 95百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	13.17	—
29年3月期第1四半期	8.46	—

(参考) 持分法投資損益 30年3月期第1四半期 △1百万円 29年3月期第1四半期 1百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	7,446	4,214	56.6
29年3月期	7,912	4,178	52.8

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 4,214百万円 29年3月期 4,178百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,150	△0.1	294	△8.3	300	△11.1	192	△9.3	16.94
通期	14,550	△1.7	338	△42.6	350	△44.1	222	△36.5	19.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社 （社名）－、除外 一社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	11,330,800株	29年3月期	11,330,800株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	－株	29年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	11,330,800株	29年3月期1Q	11,330,800株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境においては回復基調にあり、また設備投資や個人消費についても回復の動きが出てきたことなどから、景気は緩やかに持ち直しつつあります。また、世界経済においては仏大統領選、英国総選挙、米利上げ等、欧米の政治・経済リスクが一服したこと、及び米国や中国の堅調な経済指標を背景に、株価も2年ぶりの高値水準で推移しています。

こうした環境の下、当社グループでは、放送業界、音楽業界、エンタテインメント業界における市場環境や消費者ニーズの変化に対応するため、創業以来行ってきた音楽映像コンテンツの企画制作及び有料多チャンネル放送プラットフォームにおける音楽専門チャンネルの運営をベースとしつつ、ライブイベント展開、デジタルコンテンツ制作や各種デジタルサービス展開、音楽レーベルからアーティストマネジメントに至る展開まで、当社グループが有するあらゆる機能を複合的に活用しながら、多様なメディア・コンテンツ事業を展開し、総合音楽エンタテインメント企業への転換を図ることを基本方針として参りました。また、ファンクラブ事業を展開するコネクトプラス(株)、コンセプトカフェ運営を行うインフィニア(株)、映像制作プロダクションの(株)セップ、老舗インディーズレーベル運営の(株)Pヴァイン等、これら連結子会社とともに、新たな分野での成長施策の推進、事業領域の拡大に向けた企業グループ経営を推進しております。

当第1四半期連結累計期間においては、当社所属アーティストの「Suchmos（サチモス）」が、ソニー・ミュージックレーベルズとのパートナーシップ契約により、2017年4月に新レーベル『F.C.L.S.』を立ち上げ、音楽ファンの中で大きな話題となるとともに、さらなる飛躍に向けた一歩を踏み出しました。また、前連結会計年度に開店したライブハウス事業の2号店「WWW X」が好調に推移し、さらに2017年4月にはコラボカフェ「AREA-Q」の2号店「AREA-Q ANNEX」もオープンする等、新規事業領域開拓へ向けた取り組みも強化、推進しております。

これら取り組みの結果、売上高は3,309,881千円と前年同期比202,049千円増（同6.5%増）となりました。また、営業利益は199,594千円と前年同期比53,193千円（同36.3%増）、経常利益は209,027千円と前年同期比57,775千円増（同38.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は149,265千円と前年同期比53,462千円増（同55.8%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

①メディア・コンテンツ セグメント

当セグメントにつきましては、音楽チャンネルの運営を中心に関連イベントやコンテンツプロデュースを展開するSPACE SHOWER TV事業、アーティストマネジメントからレーベル及びディストリビューションまでアーティストビジネスを360度展開するSPACE SHOWER MUSIC事業、音楽周辺のポップカルチャー領域を開拓するSPACE SHOWER ENTERTAINMENT事業、及び「WWW」「WWW X」を運営するライブハウス事業の4つの事業ユニットを中心に、連結子会社(株)Pヴァインのレーベル事業、コネクトプラス(株)のファンクラブ事業、インフィニア(株)のコンセプトカフェ事業等を加えて、各事業分野の成長施策の推進にあっております。

SPACE SHOWER TV事業においては、有料放送収入におけるスカパー！サービスの「スペースシャワーTV」配分単価が前年同期比で上昇したものの、スカパー！サービス全体の加入世帯数減少により売上高は微増に留まりました。

SPACE SHOWER MUSIC事業においては、前連結会計年度に大躍進したアーティスト関連売上の反動減はあるものの、Suchmosによる既発売商品がCD及び配信ともに予想を上回る伸びを示し、またデジタル音楽配信も前年同期比で増収・増益となったため、ほぼ前年同水準の利益を維持しています。

その他、ライブハウス事業において2号店「WWW X」が好調に推移し前年同期比で増収となるとともに、1号店との連携によりコスト面での合理化を図り増益貢献しました。また、インフィニア(株)が運営する「@ほお〜むカフェ」も、引き続き好調な集客により、売上高、経常利益ともに、前年同期を大きく上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は2,940,797千円と前年同期比45,657千円増（同1.6%増）となり、経常利益（セグメント利益）につきましても193,124千円と前年同期比33,628千円増（同21.1%増）と増収増益となりました。

②映像制作 セグメント

当セグメントにつきましては、大型LIVE映像制作の受注が増加したことなどにより、売上高は369,083千円と前年同期比156,391千円増(同73.5%増)となり、経常利益(セグメント利益)につきましても18,015千円と前年同期比10,832千円増(同150.8%増)と増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、主にその他(流動資産)が113,108千円増加し、一方で受取手形及び売掛金が329,770千円、現金及び預金が199,736千円、繰延税金資産(流動資産)が47,873千円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ466,806千円減少し、7,446,137千円となりました。

負債につきましては、主にリース債務(流動負債)が80,544千円、預り金が63,911千円増加し、一方で未払法人税等が202,366千円、買掛金が200,201千円、賞与引当金が129,337千円、リース債務(固定負債)が88,206千円、未払金が50,179千円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ502,763千円減少し、3,231,480千円となりました。また、純資産は利益剰余金が前連結会計年度末に比べ35,957千円増加したことにより、4,214,656千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績につきましては、概ね予想通りに推移しており、平成29年4月28日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,736,609	2,536,873
受取手形及び売掛金	1,960,158	1,630,387
商品	235,266	234,070
仕掛品	266,741	258,042
貯蔵品	6,450	12,383
繰延税金資産	151,448	103,574
その他	191,811	304,920
貸倒引当金	△61,427	△60,792
流動資産合計	5,487,058	5,019,460
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,097,423	1,102,288
機械装置及び運搬具	23,762	33,336
工具、器具及び備品	472,149	483,970
土地	72,455	72,455
リース資産	518,695	518,695
建設仮勘定	12,394	11,814
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,238,233	△1,272,604
有形固定資産合計	958,648	949,956
無形固定資産		
のれん	196,680	184,676
商標権	175,724	172,767
ソフトウェア	130,343	130,787
ソフトウェア仮勘定	3,000	3,000
その他	12,216	10,769
無形固定資産合計	517,965	502,001
投資その他の資産		
投資有価証券	266,289	285,181
敷金及び保証金	381,096	379,966
繰延税金資産	248,144	253,376
その他	79,776	84,118
貸倒引当金	△36,701	△36,701
投資その他の資産合計	938,605	965,941
固定資産合計	2,415,218	2,417,898
繰延資産		
株式交付費	8,024	6,304
その他	2,642	2,473
繰延資産合計	10,666	8,778
資産合計	7,912,944	7,446,137

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,320,301	1,120,100
リース債務	22,291	102,836
未払金	287,182	237,003
未払法人税等	237,494	35,127
預り金	511,194	575,106
賞与引当金	206,549	77,212
役員賞与引当金	19,796	4,671
返品調整引当金	78,095	61,137
売上割戻引当金	1,075	1,049
その他	122,881	160,879
流動負債合計	2,806,863	2,375,123
固定負債		
リース債務	143,813	55,607
退職給付に係る負債	645,551	658,627
役員退職慰労引当金	131,475	136,934
その他	6,539	5,187
固定負債合計	927,380	856,356
負債合計	3,734,244	3,231,480
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,920,579	1,920,579
資本剰余金	977,579	977,579
利益剰余金	1,280,541	1,316,498
株主資本合計	4,178,699	4,214,656
純資産合計	4,178,699	4,214,656
負債純資産合計	7,912,944	7,446,137

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	3,107,832	3,309,881
売上原価	2,205,781	2,347,111
売上総利益	902,050	962,770
返品調整引当金戻入額	725	16,958
差引売上総利益	902,776	979,728
販売費及び一般管理費	756,375	780,134
営業利益	146,400	199,594
営業外収益		
受取利息	2	—
受取配当金	395	5,442
持分法による投資利益	1,480	—
受取賃貸料	435	290
業務受託手数料	2,051	4,027
諸預り金戻入益	1,390	1,138
助成金収入	1,500	2,000
雑収入	546	157
営業外収益合計	7,801	13,056
営業外費用		
支払利息	329	362
持分法による投資損失	—	1,168
株式交付費償却	1,719	1,719
為替差損	855	373
雑損失	46	—
営業外費用合計	2,950	3,623
経常利益	151,252	209,027
税金等調整前四半期純利益	151,252	209,027
法人税、住民税及び事業税	57,843	17,120
法人税等調整額	△2,213	42,642
法人税等合計	55,629	59,762
四半期純利益	95,622	149,265
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△180	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	95,802	149,265

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	95,622	149,265
四半期包括利益	95,622	149,265
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	95,802	149,265
非支配株主に係る四半期包括利益	△180	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア・ コンテンツ	映像制作	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,895,140	212,691	3,107,832	—	3,107,832
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	13,062	13,062	△13,062	—
計	2,895,140	225,754	3,120,894	△13,062	3,107,832
セグメント利益	159,496	7,182	166,678	△15,426	151,252

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引等消去△15,426千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア・ コンテンツ	映像制作	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,940,797	369,083	3,309,881	—	3,309,881
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	3,867	3,867	△3,867	—
計	2,940,797	372,950	3,313,748	△3,867	3,309,881
セグメント利益	193,124	18,015	211,140	△2,112	209,027

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引等消去△2,112千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。